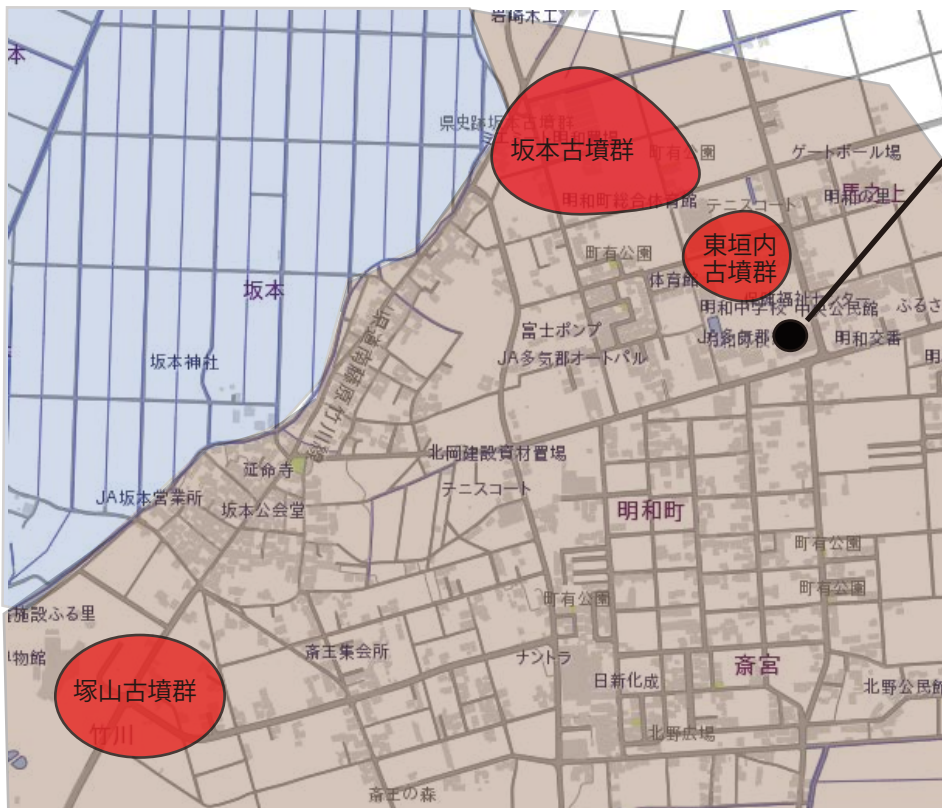


坂本古墳群

(解説シート 1)

明和町にある古墳は大半が南側の丘陵に造られています。坂本古墳群は洪積台地こうせきだいちと呼ばれる平坦な丘の端に造られています。

丘の端は、古墳を造るのに良いとされていたようで、周辺には東垣内古墳群ひがしがいとこふんぐん、塚山古墳群つかやまこふんぐんという古墳群が造られています。現在は木や住宅などによって見ることはできませんが、坂本1号墳の頂上からは、西に広がる広大な田んぼが見渡せました。当時も、景色のよいところにお墓を造りたいと考えたのでしょうか。



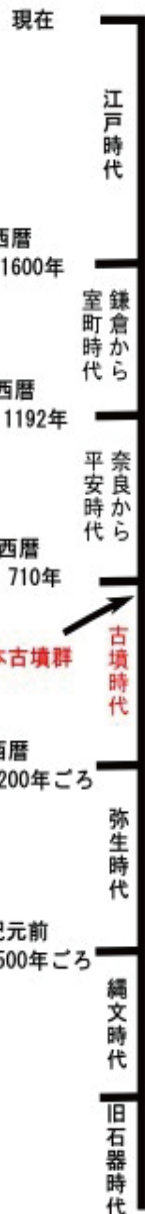
坂本古墳群と周辺の古墳群

(茶色が洪積台地と呼ばれる丘の上、水色は低地)

坂本古墳群は、古墳時代の一番終わりに造られました。当時すでに奈良の飛鳥では天皇を中心とした国家が作られつつあり、飛鳥時代とも呼ばれている時代です。

古墳時代を代表する前方後円墳ぜんぽうこうえんふんなどの大きな古墳は、このときにはほとんど造られなくなり、小さな円墳、方墳が数多く造られるようになります。坂本古墳群もそれと同様ですが、坂本1号墳だけは前方後方墳ぜんぽうこうほうふんという特殊な形で造られており、この近くの古墳の中では、もっとも大きく造られています。

明和町役場



坂本古墳群周辺は、もともと150基以上の古墳が密集して造られており、地元では「坂本百八塚」と呼ばれていましたが、現在は6基の古墳が残っているだけです。

昭和10年ごろから、原野であった周辺を開墾する作業が始まりましたが、たくさんあった古墳も、そのときに大部分が破壊されてしまいました。

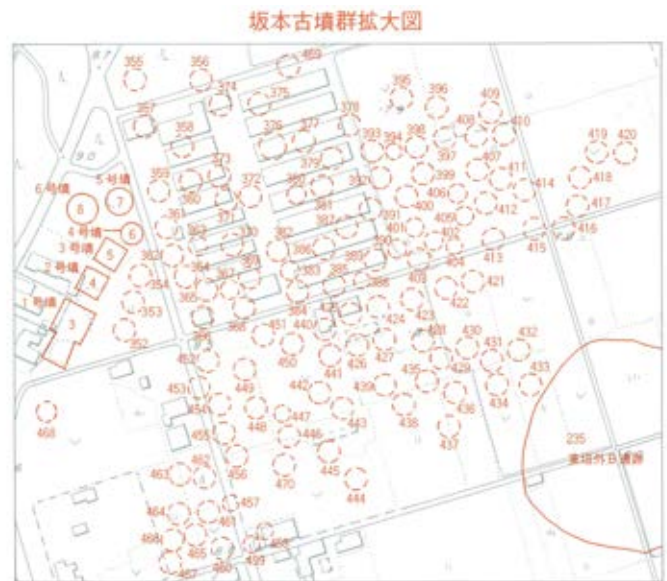
しかし、その当時に坂本古墳群を調査されていた鈴木敏雄氏によって、保存地区が作られ、6基の古墳は守られました。

その残った古墳のうち3基を、平成7年度から発掘調査し、1号墳からは、金銅装頭椎大刀こんどうそう かぶつちのたちが発掘され、古墳は県の史跡に指定されました。

1号墳には、金の鶏が埋まっているという伝説が地元にはあり、坂本の集落が衰退したときに掘り出して集落を再興させるという話が伝えられていました。古墳には金の鶏が埋まっているという伝説は各地に残っていますが、ここ坂本では、金の鶏ではなく、金の刀が実際に埋められていたことがわかりました。



坂本1号墳



調査前の坂本1号墳(平成7年)



左上の航空写真は、昭和20年に撮影されたものです。よく見ると、写真の中央から右上にかけて、黒い点のようなものが見えます。実はこれ、壊された古墳の痕跡が見えていると考えられています。

撮影されたとき、すでに古墳は削られていたため、古墳の微妙な土の違いが写ったようです。この写真によって、壊された坂本古墳群の位置が特定され、鈴木敏雄氏の古墳地図とあわせて右上の地図が作られました。

現在も、この地図をもとにして、古墳の保存や調査が進められています。文化財は壊れてしまうと、取り戻すことはできません。みんなで文化財を守っていきましょう。